
あるパソコン部の物語

ハルバート

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あるパソコン部の物語

【Nコード】

N2181BA

【作者名】

ハルバート

【あらすじ】

憂鬱な日々を過ごしている主人公の創つくる

このままでいいのか、などと思いながらも結局は実行に移せない。そんな彼がパソコン部に入部することになり・・・

パソコン部を舞台にした躍動感ゼロの物語が今始まる。

第一話（前書き）

この作品は、小説力がゼロである作者の処女作にあたります。
と、ここまでくれば皆様の予想通りです。

つまり、細かいことは見逃し——
いきなり出しゃばってすみませんでした。

では、お楽しみください。

第一話

憂鬱だなどと思いつながら僕は始業式に参加していた。

瀬名中央学園、通うことになった高校の名前だ。

10年ほど前までは新しくできた学校として注目を集めいた。しかし、時の流れというものだろうか、いつしかごく普通の高校となっている。

ただ、唯一違うところはこの学校が私立だということだろうか。都会にできればごくあたりまえのことかもしれないが、このあたりではまだ珍しい。

「28番、ながた つくる永田創」

僕の名前が呼ばれたようだがさほど興味はない。冷めている、ということは自分でもわかっている。

中学の頃はよくいじめに合わなかったものだ和我ながら立派だと思つ。

「37番、わたなべ たつや渡辺達也」

お、同じクラスだったのか。

達也は中学時代の数少ない友達だ。こんな自分でもさすがに友達はいる。

「・・・これをもって入学式を終了いたします」

ようやく終わったか。あとは教室に戻るだけだ。廊下を歩いている途中で妙な噂を耳にした。

「彼女、またやったみたいね」

「そうね。何とかならないかしら」

ん？彼女、誰のことだろうか。どちらにしろそのような人物にか
かわるつもりわないがなんとなく気になる。

担任から説明を聞き家に帰る。僕の家は通学時間は自転車を30
分ほど走らせたところにある。

「ただいま」

「あら、おかえりなさい」

あつ、母さんだ。今日は来なかったのか。

「今日はお父さん行っ たわよ」

そうだったのか、全く気が付かなかった。いや、気が付けなかつ
たという方が正確か。

そして、部屋につくころにはすっかり彼女のことを忘れていたの
だった。

第一話（後書き）

いかがだったでしょうか。

こんな作品求めてねーよとか聞こえてきますが気にしないでおきます。

と、まあこんな感じで連載を続けられたらと思っています。

ご意見、ご感想などありましたらビシバシとお申し付けください。

ここまでお付き合いいただきありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2181ba/>

あるパソコン部の物語

2012年1月5日16時54分発行